

人口ビジョン

1. 人口ビジョンの位置づけ

大和郡山市人口ビジョンは、本市における人口の現状を分析し、人口問題に対する認識・課題を共有し、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、総合戦略（総合計画における重点戦略）の策定において、効果的な施策を企画・立案する上で重要な基礎情報となるものです。

第3期総合戦略を策定するにあたり、効果的な施策を立案するための基礎情報として、改定を行いました。

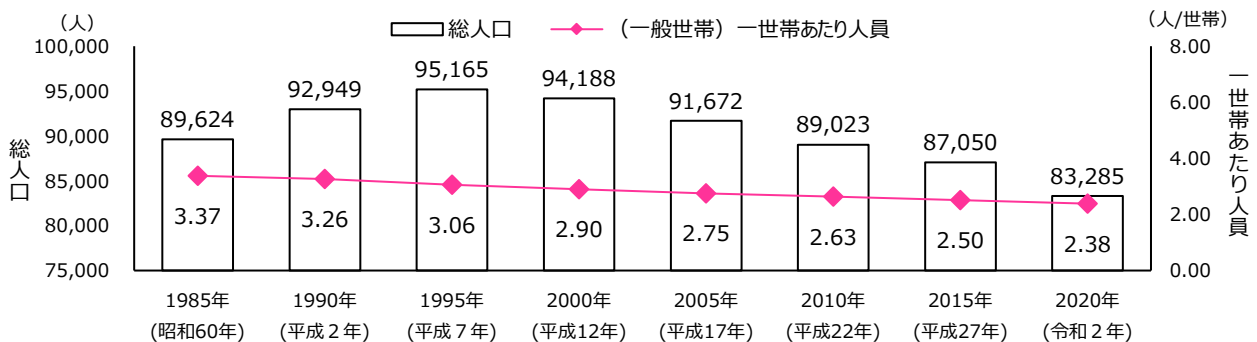
なお大和郡山市人口ビジョンは、令和42年（2060年）までを対象期間としています。

2. 人口及び世帯の状況

(1) 人口（国勢調査）の推移

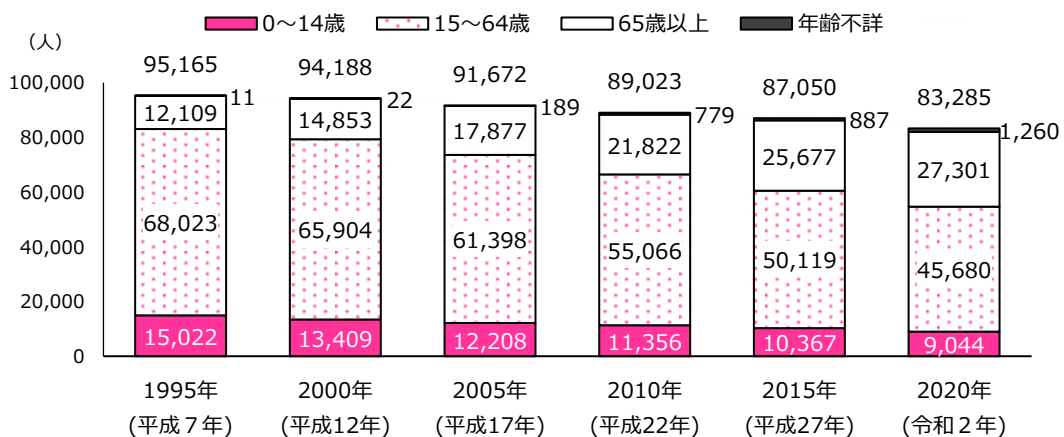
- 総人口は1995年の95,165人をピークに減少傾向にあり、2020年で83,285人。
- （一般世帯）一世帯あたり人員は年々減少傾向（2020年で2.38人）。
- 年齢3区分別にみると、0～14歳（年少人口）及び15～64歳（生産年齢人口）は年々減少、65歳以上（高齢者人口）は年々増加。

総人口及び（一般世帯）一世帯あたり人員の推移（長期）



資料：総務省「国勢調査」

年齢3区分別人口の推移

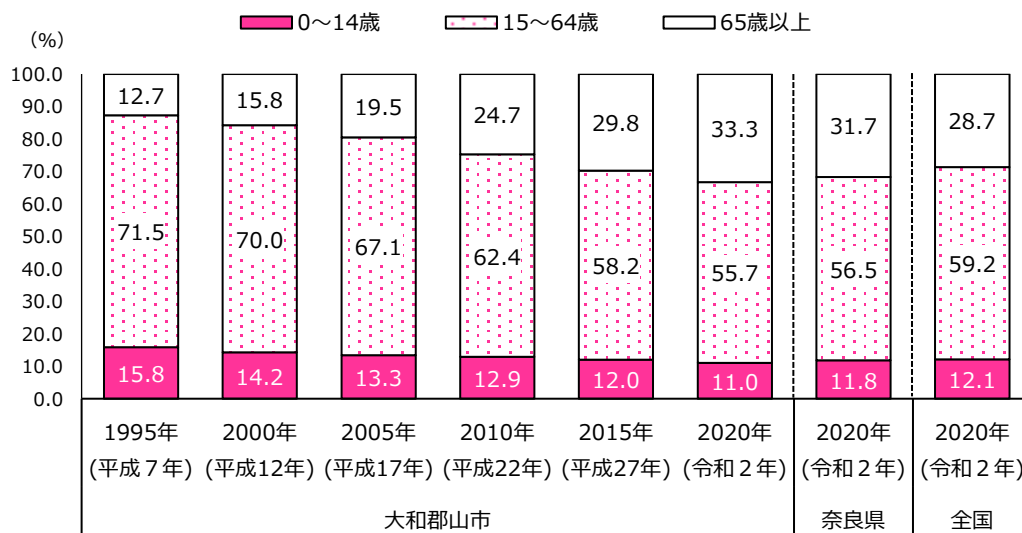


資料：総務省「国勢調査」

○年齢3区別に人口構成割合をみると、人口ピーク時の1995年は0～14歳は15.8%、15～64歳は71.5%、65歳以上は12.7%になっているが、2020年では65歳以上（高齢化率）が33.3%と、高齢者割合が大きく上昇。

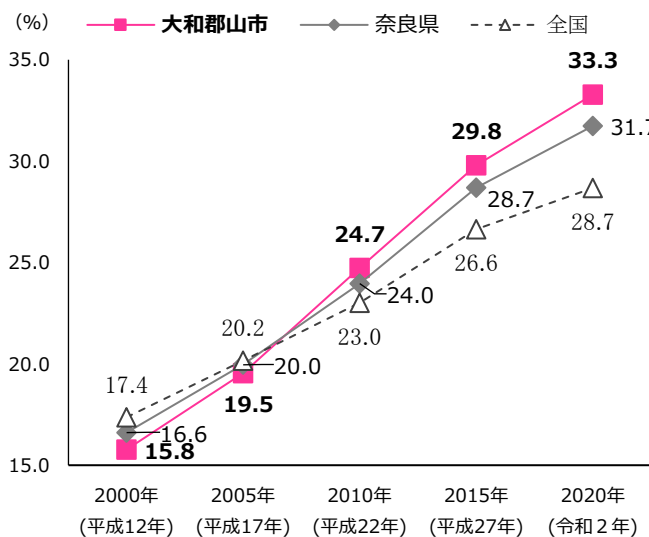
○高齢化率は2010年、後期高齢化率は2015年を境に全国・奈良県を上回る。

年齢3区別人口構成割合の推移

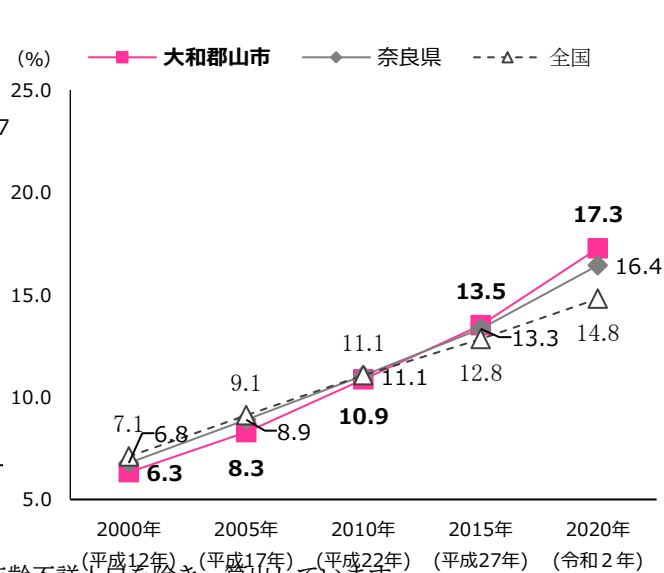


資料：総務省「国勢調査」 ※上記の構成比は年齢不詳人口を除き、算出しています。

高齢化率の推移



後期高齢化率の推移

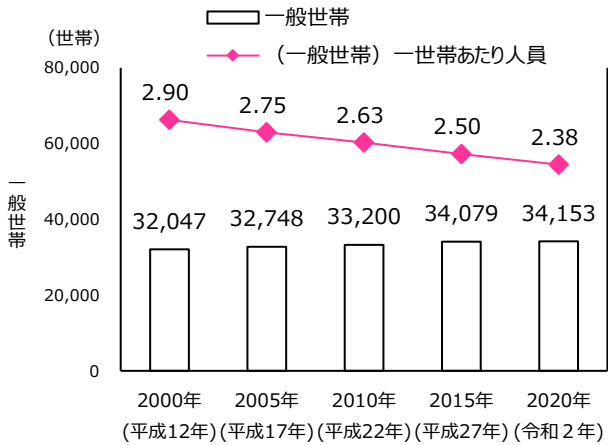


資料：総務省「国勢調査」 ※高齢化率・後期高齢者率は年齢不詳人口を除き、算出しています。

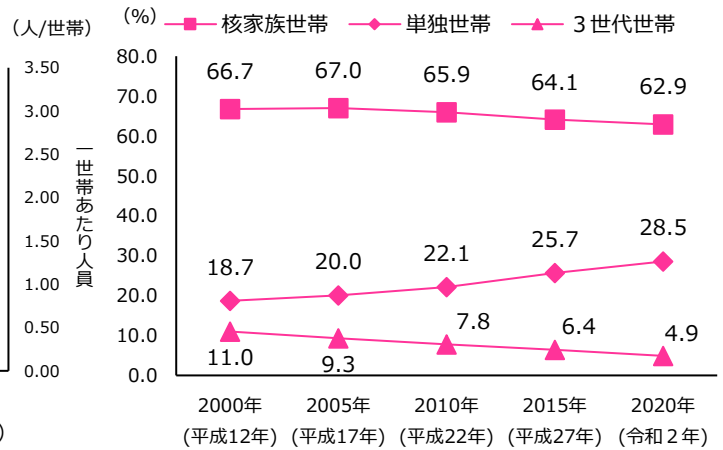
(2) 世帯の推移

- 一般世帯は年々増加しているが、一世帯あたり人員は年々減少。
- 世帯構成をみると、核家族世帯・3世代世帯は減少、単独世帯は増加の傾向。また、単独世帯の構成比は2020年で28.5%と、全国・奈良県より低い。

一般世帯及び(一般世帯)一世帯あたり人員の推移



一般世帯に占める世帯構成割合の推移



資料：総務省「国勢調査」

世帯構成の推移

		大和郡山市					奈良県	全国
		2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2020年 (令和2年)	2020年 (令和2年)
一般世帯	世帯数	32,047	32,748	33,200	34,079	34,153	543,908	55,704,949
親族のみの世帯	世帯数	25,970	26,077	25,481	25,028	24,127	380,297	33,889,589
	構成比	81.0	79.6	76.8	73.4	70.6	69.9	60.8
核家族世帯	世帯数	21,373	21,936	21,876	21,829	21,472	340,422	30,110,571
	構成比	66.7	67.0	65.9	64.1	62.9	62.6	54.1
核家族以外の世帯	世帯数	4,597	4,141	3,605	3,199	2,655	39,875	3,779,018
	構成比	14.3	12.6	10.9	9.4	7.8	7.3	6.8
非親族を含む世帯	世帯数	85	107	199	183	205	3,099	504,198
	構成比	0.3	0.3	0.6	0.5	0.6	0.6	0.9
単独世帯	世帯数	5,992	6,564	7,331	8,752	9,734	159,204	21,151,042
	構成比	18.7	20.0	22.1	25.7	28.5	29.3	38.0
世帯の家族類型「不詳」	世帯数	0	0	189	116	87	1,308	160,120
	構成比	0.0	0.0	0.6	0.3	0.3	0.2	0.3
(別掲)3世代世帯	世帯数	3,521	3,035	2,582	2,172	1,671	25,015	2,337,703
	構成比	11.0	9.3	7.8	6.4	4.9	4.6	4.2

資料：総務省「国勢調査」

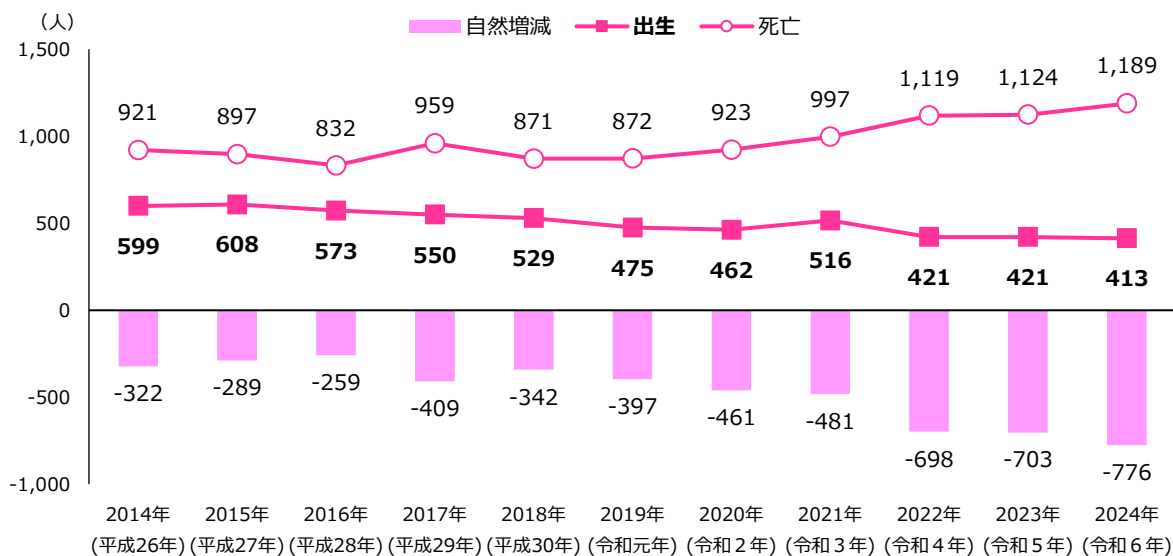
※四捨五入の関係で、合計と内訳が一致しない場合があります。

3. 人口動態

(1) 出生と死亡

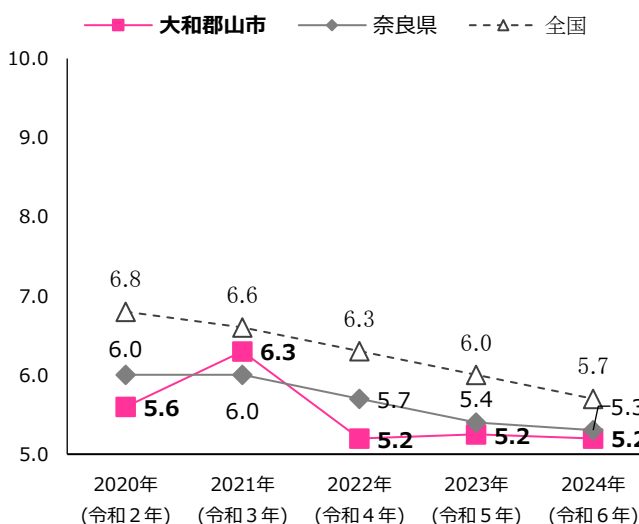
- 出生数は2024年で413人と減少傾向に対し、死亡数は2024年で1,189人と増加傾向。
- 出生数を死亡数が上回る“自然減”の状況が続いている。
- 出生率は全国・奈良県より低く、死亡率は全国・奈良県よりも高い。

出生数と死亡数の推移(自然増減の推移)

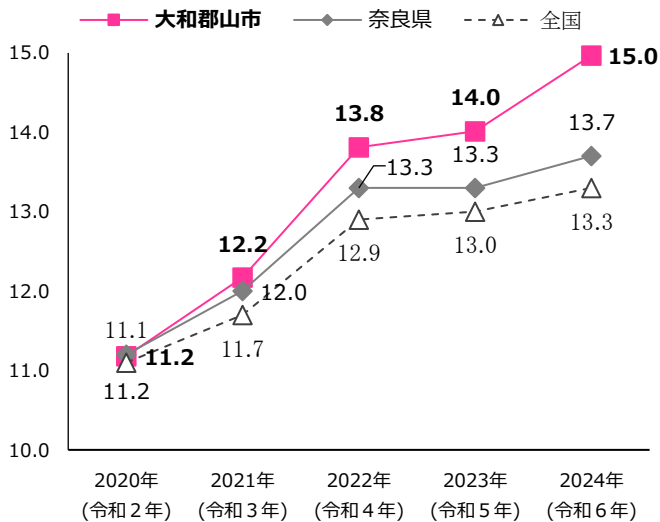


資料：奈良県「人口動態統計」

出生率(人口千対)の推移



死亡率(人口千対)の推移

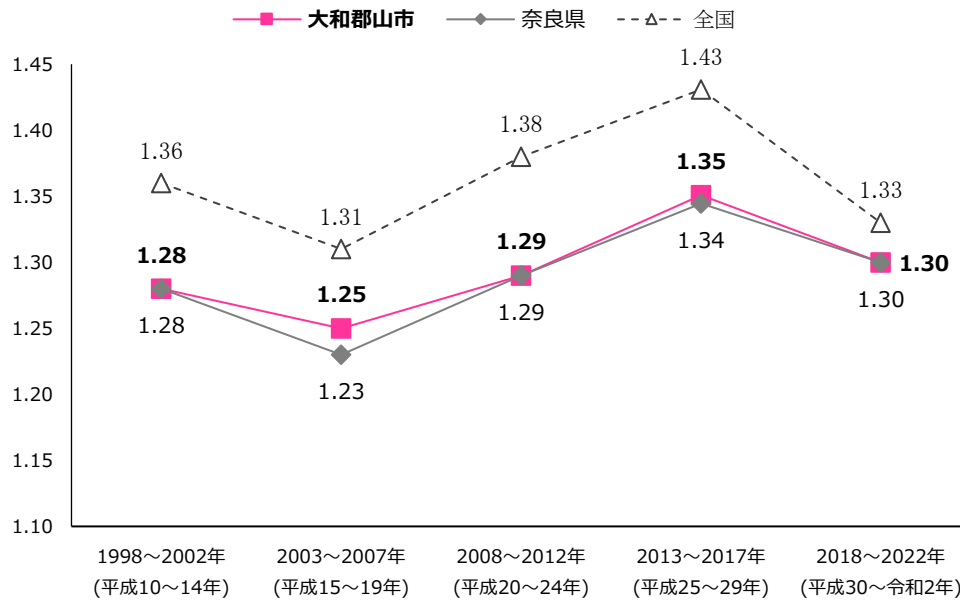


資料：大和郡山市・奈良県は奈良県「人口動態統計」、全国は厚生労働省「人口動態統計」

○合計特殊出生率は、2018～2022年で1.30。各年ともに全国よりわずかに低く、奈良県とほぼ同じ。

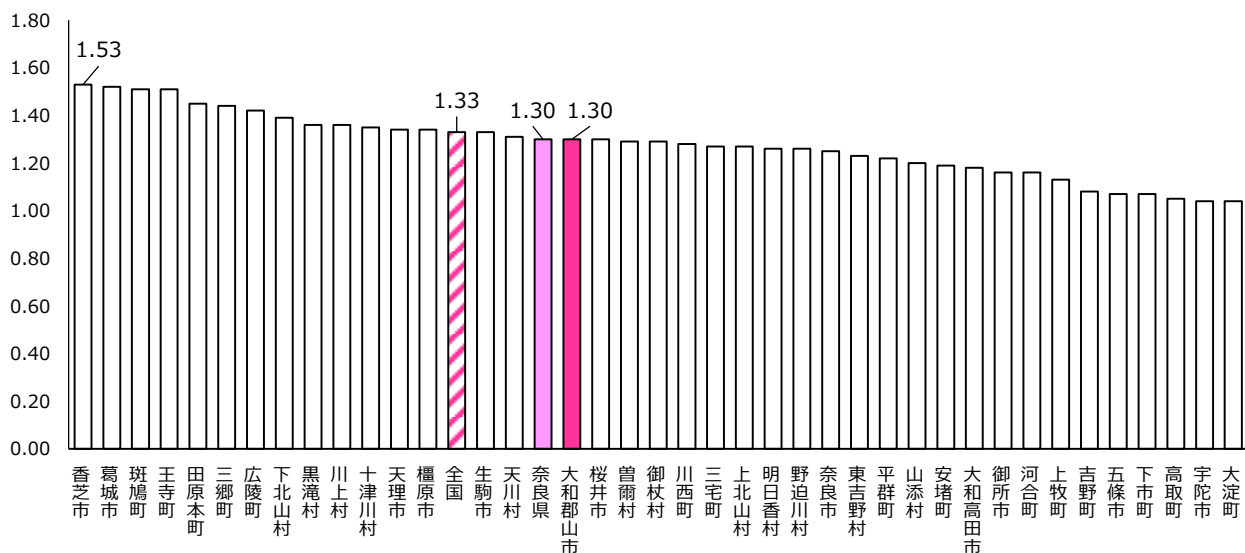
○2018～2022年の合計特殊出生率を市町村別にみると、本市は39市町村中16番目とほぼ中間。

合計特殊出生率の推移



資料：人口動態統計特殊報告

全国・奈良県・市町村別合計特殊出生率【2018～2022年（平成30～令和2年）】



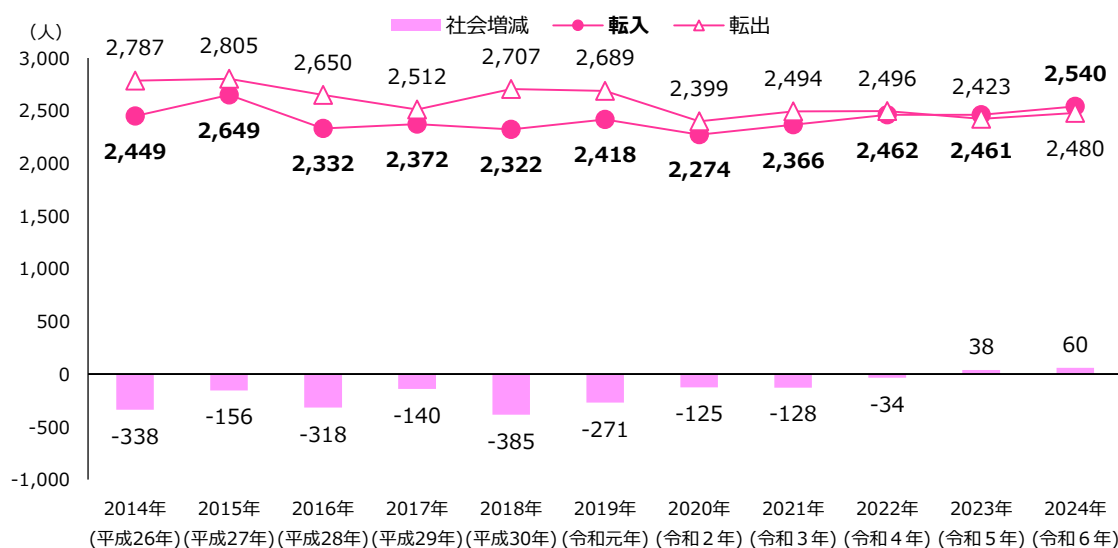
資料：人口動態統計特殊報告

(2) 転入・転出

○転入者・転出者ともに各年とも2,000人台で推移。転入者数から転出者数を引いた社会増減は、近年均衡している。

○2024年を年齢別にみると、転入者・転出者ともに15～44歳の年代が多い。主として20～24歳・35～39歳において転出者のほうが多いが、そのほかの年代は、概ね転入者のほうが多い。

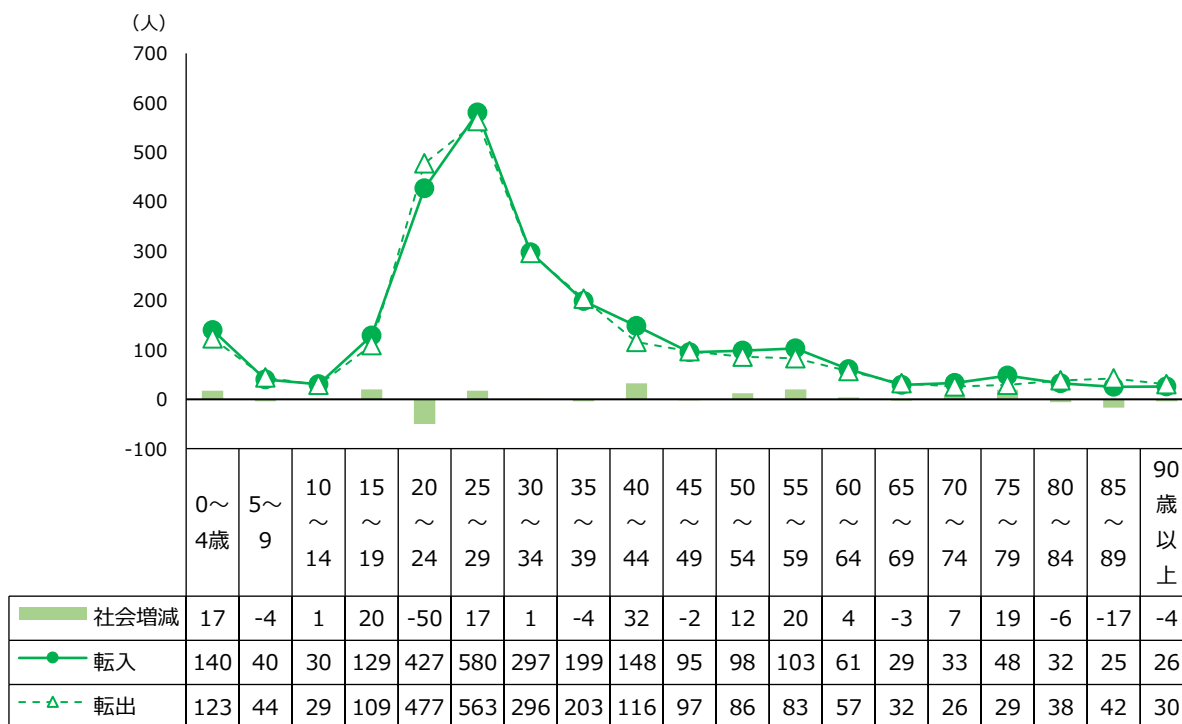
転入と転出の推移（社会増減の推移）



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※総合戦略では性別・年齢別で社会増減を把握するため上記統計を用いている。なお、基本構想は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」にて分析を行っている。

年齢別転入と転出【2024年（令和6年）】

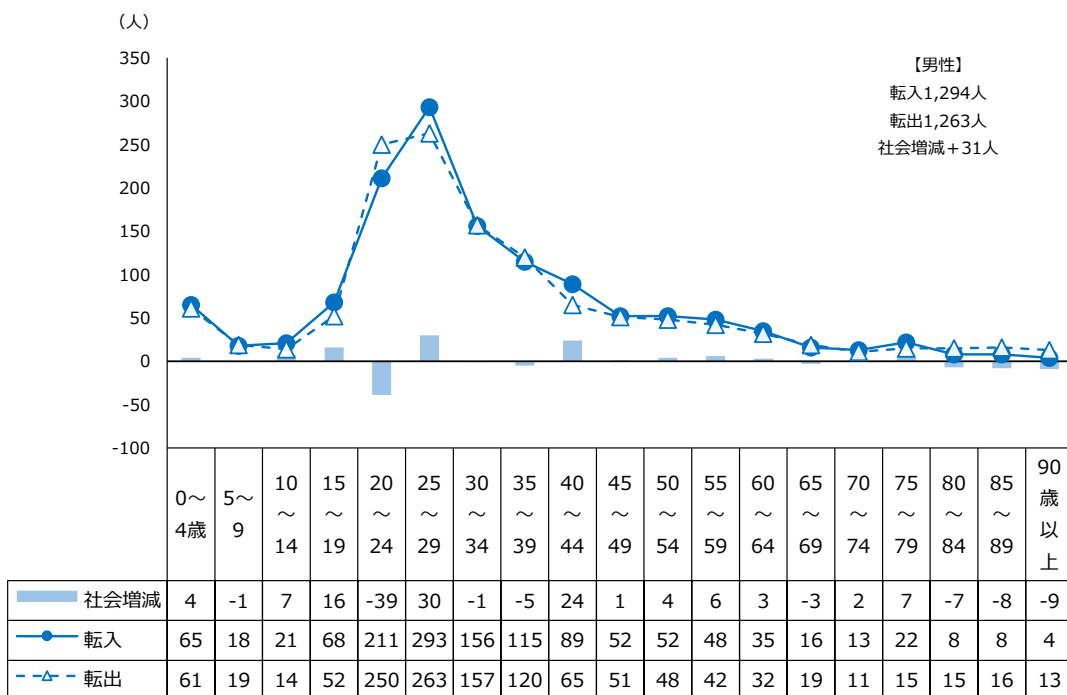


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

○2024 年を性別にみると、男女ともに社会増。

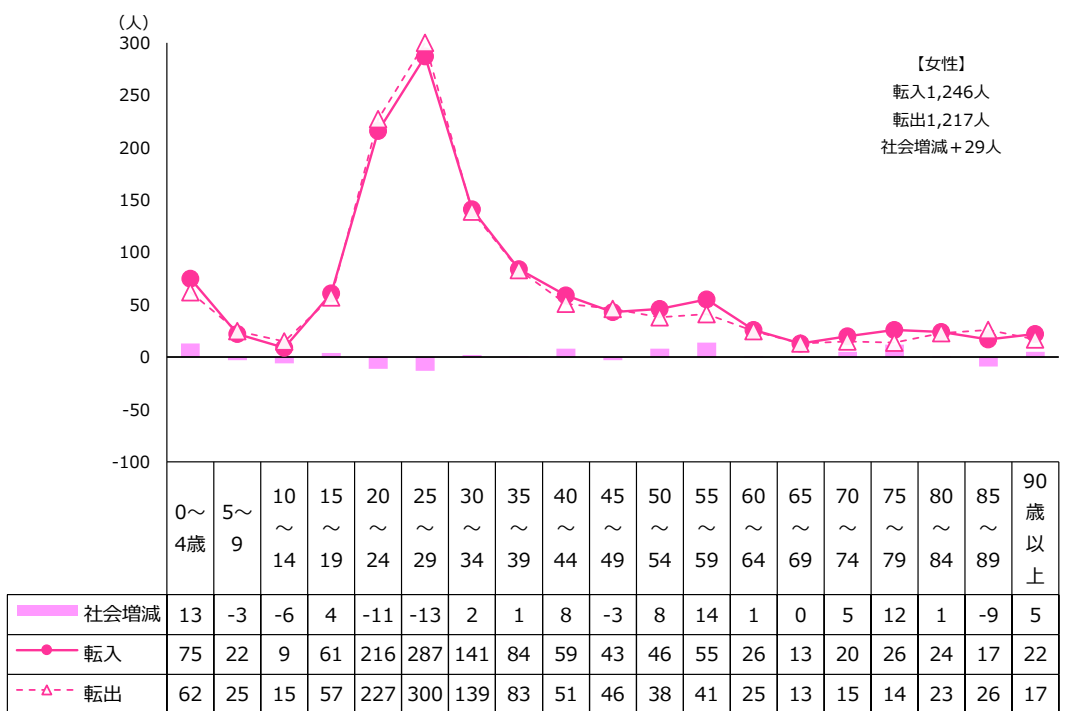
○2024 年を性年齢別に社会増減の多い 20 歳代をみると、男性は 20～24 歳で社会減、25～29 歳で社会増に対し、女性は 20～24 歳・25～29 歳ともに社会減。

男性の年齢別転入と転出【2024 年（令和 6 年）】



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

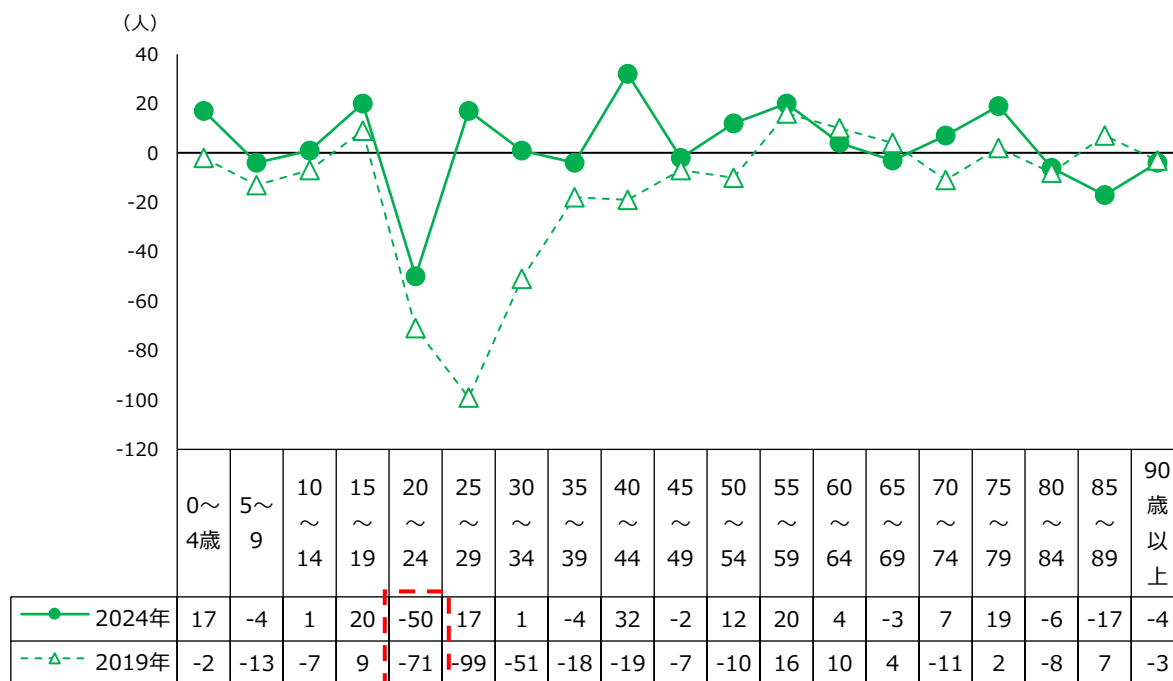
女性の年齢別転入と転出【2024 年（令和 6 年）】



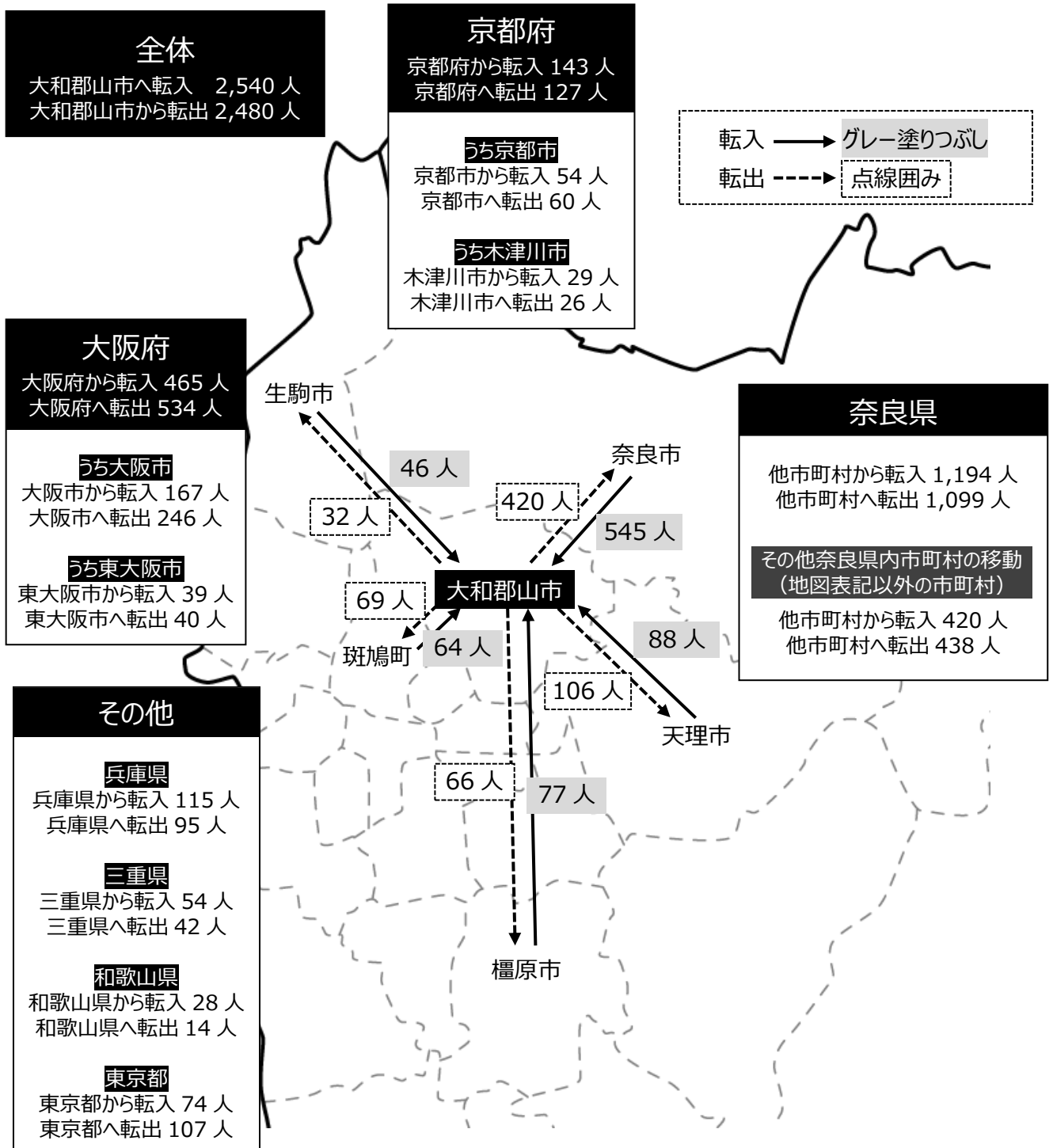
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- 2024年と2019年の社会増減を比べると、2024年・2019年ともに20～24歳の社会減が多い。
- 各年代別にみると、60歳以上の一部の年代において2019年当時より減少している階層もあるが、59歳以下のすべての年代において2019年当時より増加もしくは減少幅の縮小につながっている。

2019年と2024年の社会増減



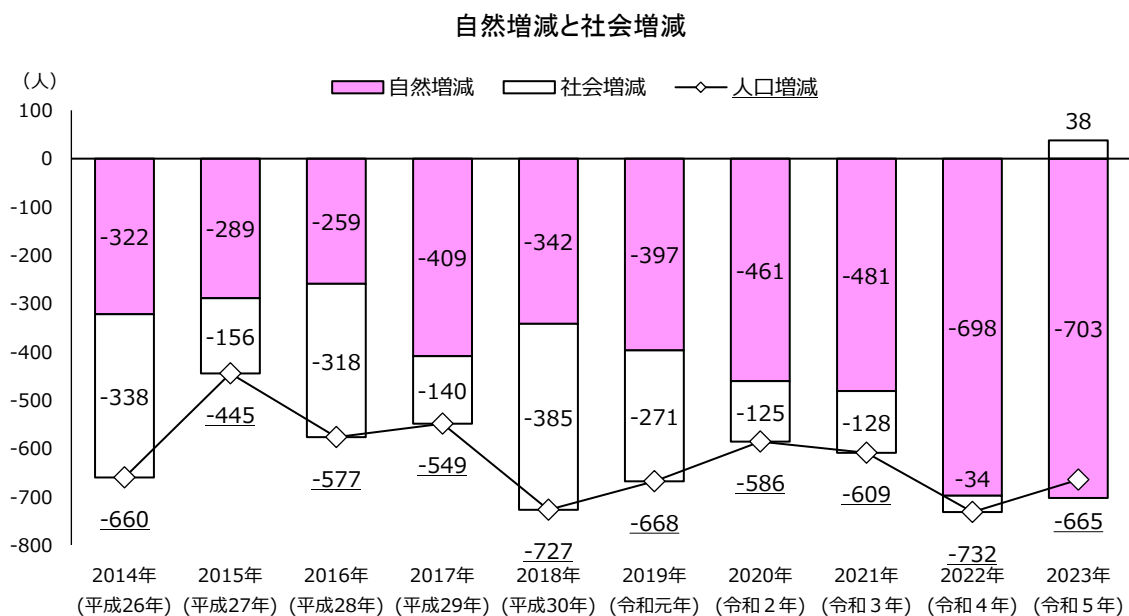
- 2024年の転入・転出をエリア別にみると、転入・転出の約4割は奈良県内での移動となっており、うち「奈良市」への転入・転出が最も多い。ほか、奈良県下では「天理市」「橿原市」「斑鳩町」での転入・転出が多い（各市町50人以上の転入・転出）。
- 奈良県以外の都道府県でみると、転入は「大阪府」「京都府」「兵庫県」、転出は「大阪府」「京都府」「東京都」の順が多い。



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(3) 自然増減と社会増減

○自然増減は、近年自然減（出生を死亡が上回る）が年々増えているのに対し、社会増減（転入者数と転出者数の差）は均衡している。

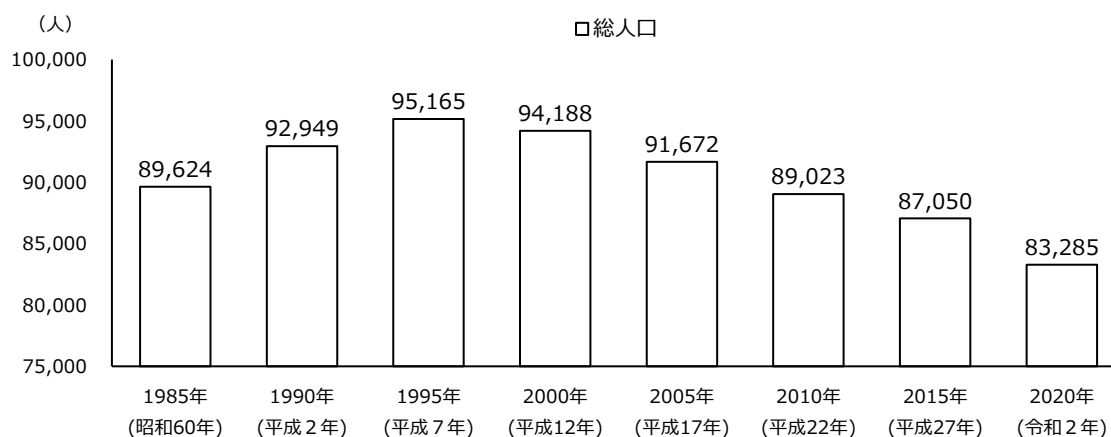


資料：自然増減は奈良県「人口動態統計」、社会増減は総務省「住民基本台帳人口移動報告」

4. 大和郡山市における総人口の現状とこれまでの将来推計

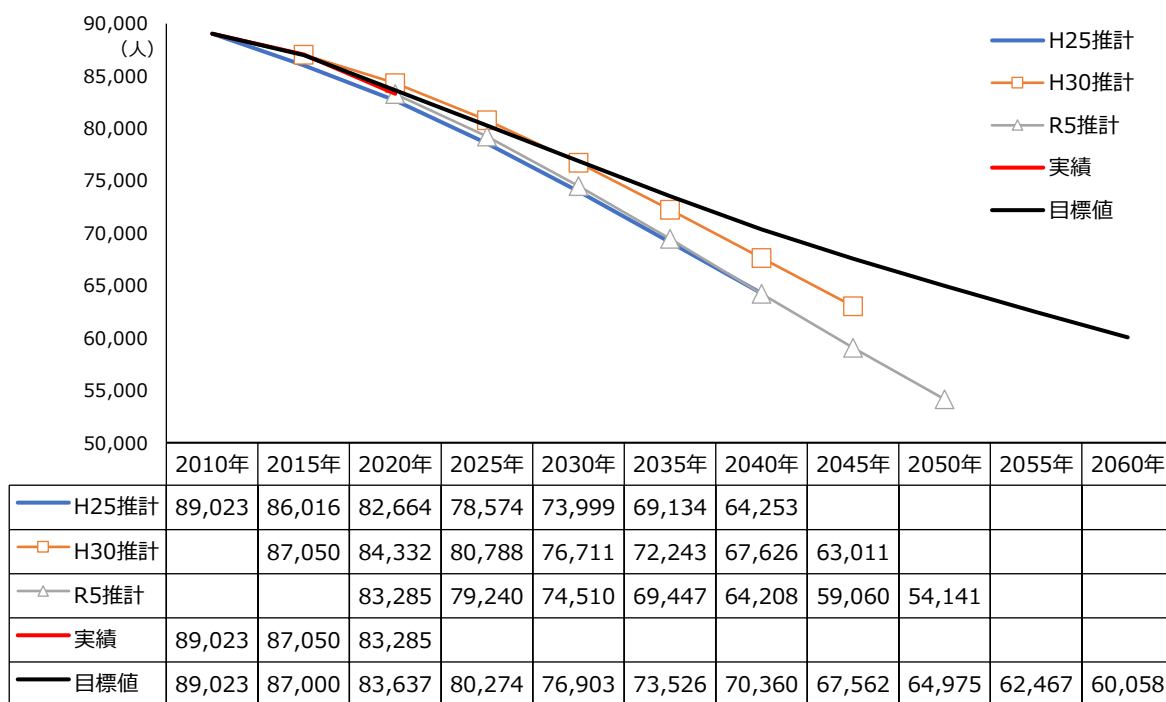
- 本市の総人口は1995年の95,165人をピークに減少傾向にあり、2020年で83,285人と人口ビジョンで定めた目標人口83,637人をやや下回るものの近い値で推移している。
- 下図は国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）による本市の将来推計で、令和5年推計では、5年区間で約4,000人から5,000人規模で人口が減少し、2050年で54,141人になると推計されている。

総人口の推移



資料：総務省「国勢調査」

社人研による人口推計と人口ビジョンにおける目標値



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、平成25年、平成30年、令和5年推計
※目標値は大和郡山市人口ビジョン

- 2024年1月に提言された「人口ビジョン2100」では、令和5年現在で約1億2,400万人いる総人口が2100年で6,300万人まで減少すると推計されている。
- 提言では、総人口が“急激”かつ“止めどもなく”減少し続ける状態から脱し、2100年までに安定的で、成長力ある「8,000万人国家」をめざすとされている。
- 人口を定常化させるためには「出生率が2.07の人口置換水準」に達し、その後も継続することが条件。
- 総人口8,000万人（国の試算）にするには、2060年に合計特殊出生率が2.07、2040年以降国際移動均衡が条件となる。

「人口定常化」をめぐる4つのケース

	2100年の人口の規模と構造			
	総人口	高齢化率	外国人割合	人口の状況
A ケース(出生率急回復) 2040年にTFR=2.07 2040年以降国際移動均衡	9100万人	28%	10.4%	・総人口は定常化の軌道に入る。 ・高齢化率は35% (2052年)をピークに、現在と同水準(28%)に低下。外国人割合は10%。
B ケース(出生率回復) 2060年にTFR=2.07 2040年以降国際移動均衡	8000万人	30%	10.4%	・総人口はほぼ定常化の軌道に入る。 ・高齢化率は36% (2054年)をピークに30%に低下。 ・外国人割合は10%。
C ケース(将来推計・中位推計) TFR=1.36、外国人入超(年間16.4万人)	6300万人	40%	15.5%	・総人口は、安定せず、減少しつづける。 ・高齢化率は40%で高止まり。 ・外国人割合は15%を超える。
D ケース(将来推計・低位推計) TFR=1.13、外国人入超(年間16.4万人)	5100万人	46%	15.6%	・総人口は、安定せず、減少しつづける。 ・高齢化率は46%で高止まり。 ・外国人割合は15%を超える。

出典：人口戦略会議「人口ビジョン2100」（2024年1月）
※国際医療福祉大・人口戦略研究所による独自試算

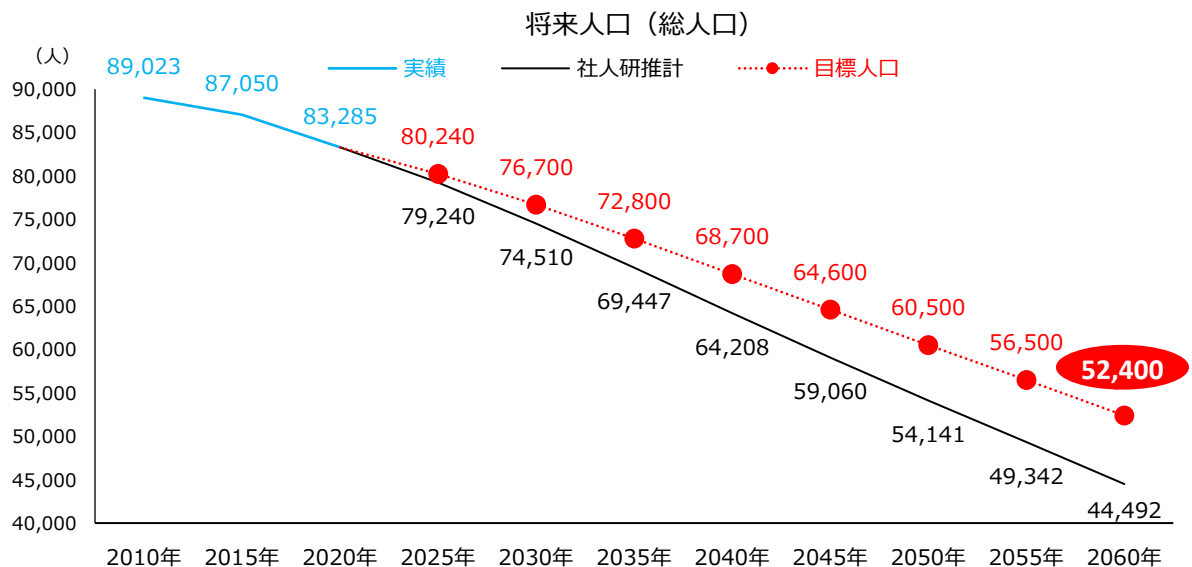
今後も人口減少が続くと想定される中、安心・安定の大和郡山市を維持していくためには一定人口を維持していくことが重要です。

5. 目標人口

- 本市のこれまでの人口動態をみると、高齢化の進展に伴い死亡数は年々増える中、出生数は減少、合計特殊出生率は1.2～1.3と横ばいの状況にある。
- 転入・転出による社会移動は、20～49歳の比較的若い世代で多く、これまで転入者を転出者が上回る“社会減”の状況が続いているが、年々減少幅は縮まり、令和5年以降は転出者を転入者が上回る社会増となっている。
- 人口減少、少子高齢化が進む中、出生率の上昇はなかなか見込めないことから、若い世代の転入促進、転出抑制につながる施策を展開することで人口減少を抑制し、2060年の将来展望人口を52,400人とする。

目標人口設定における仮定値の概要

パターン	概要
合計特殊出生率	○社人研において算出された合計特殊出生率（1.19～1.24）とする。
純移動率	○近年、20～49歳の社会増の状況を維持することを目標に、移動率を均衡（ゼロ）とする。 ○そのほかの年代は、社人研において算出された純移動率を用いる。



《参考》

